

---

# 事業者へのサポートの実践に向けて

---

～ 支援機関窓口が行うサポートについて ～

SHIFT事業 令和8年度支援機関 公募説明会

2026年2月13日

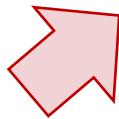


## 省CO2型システムへの改修支援事業

公募申請のサポート例

- ・基準年度活動量の把握（工場・事業場全体、主要システム系統）
- ・CO2削減計画書の作成（**CO2削減対策の効果算定**）  
等

## DX型CO2削減対策実行支援事業



支援機関でなければ  
サポートできない

支援の流れ

- ・削減余地診断の実施
- ・診断報告書の作成
- ・診断結果報告会の実施
- ・実施計画の策定
- ・実施計画報告会の実施
- ・削減対策の実践伴走支援
- ・支援完了報告会の実施

(令和7年度 DX型CO2削減対策実行支援事業 公募要領より)

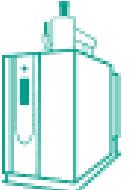
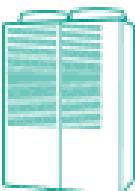
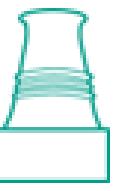
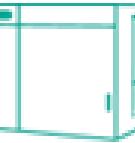
- 1. CO2削減効果の算定でのサポート**
- 2. DX型CO2削減対策実行支援事業  
でのサポート**

---

## CO2削減効果の算定でのサポート

---

# CO2削減効果の算定をサポートする算定ツール

①		空調機の燃料転換、電化、高効率化
②		ボイラーの燃料転換、高効率化
③		ボイラーの電化 (ヒートポンプ給湯)
④		工業炉の燃料転換
⑤		冷凍冷蔵設備の高効率化
⑥		空気圧縮機の高効率化
⑦		変圧器の高効率化、統合

## 算定の考え方（ボイラーの燃料転換、高効率化の場合）

- ツールの基本的な計算式（下記①～⑤は算定に使用する変数）

①対策実施【前】

の活動量

②対策実施

前の効率

④対策実施前

の低位発熱量 (A重油等)

対策実施【計画】

の活動量

$$100[\text{kL/年}] \times \frac{85[\%]}{95[\%]} \times \frac{36.73[\text{GJ/kL}]}{40.60[\text{GJ/千Nm}^3]} = 89.9 \text{ [千Nm}^3/\text{年}]$$

③対策実施

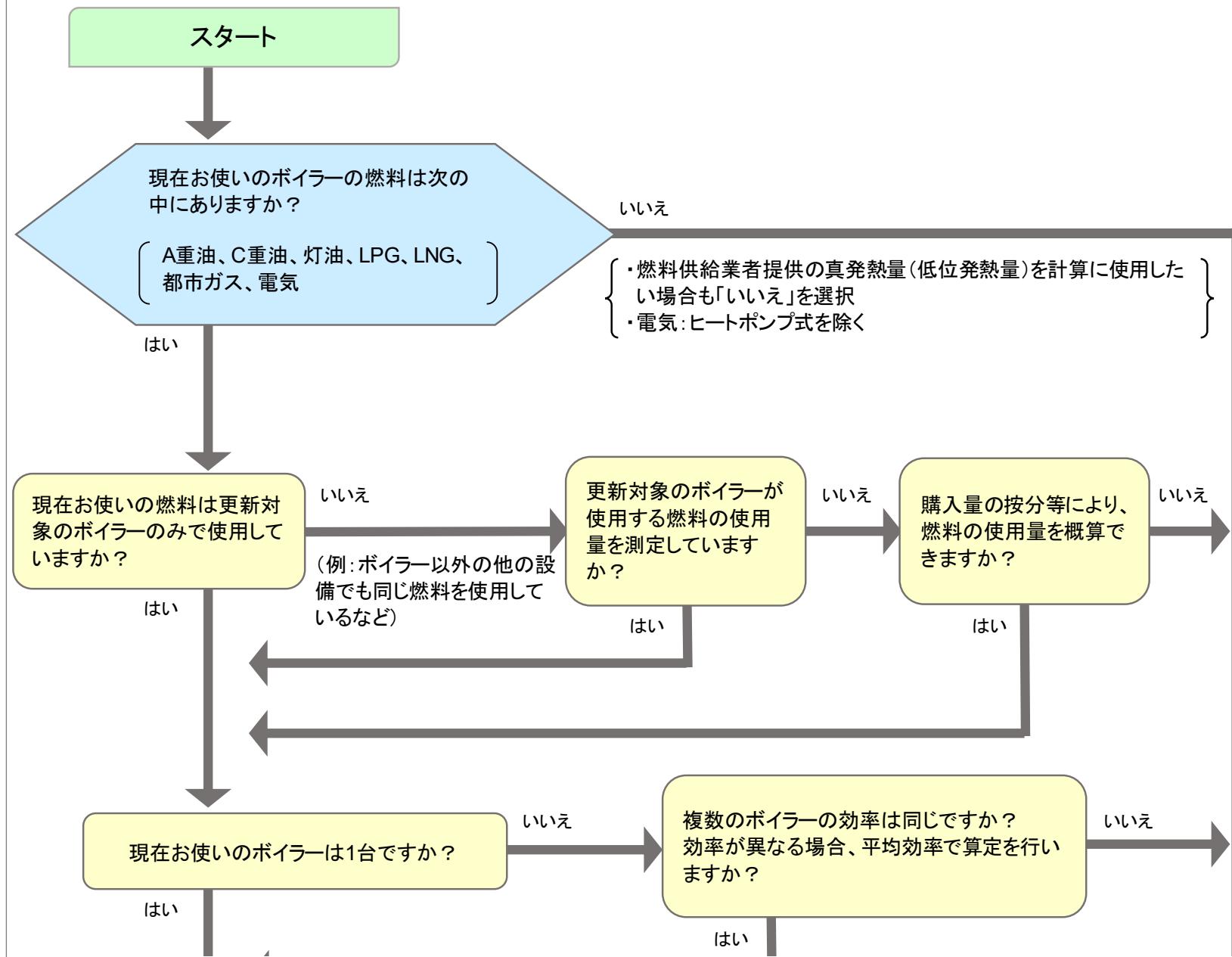
後の効率

⑤対策実施後

の低位発熱量 (都市ガス等)

## ① 利用可能か確認

設備更新等によるCO<sub>2</sub>削減効果の算定ツール（ボイラーの燃料転換、高効率化） Ver. 1.0



## ② 情報入力

設備更新等によるCO <sub>2</sub> 削減効果の算定ツール（ボイラーの燃料転換、高効率化） Ver. 1.0			
Step 1～6 の操作により導入設備の燃料使用量等が自動的に計算・表示されます。			
Step 1	現在お使いのボイラーの燃料は何ですか？9種類の中からお選びください。 (注1a、注1b)	選択	<b>A重油</b>
注1a. LPGは、ガス会社の購買伝票を確認し、kgまたはt（トン）表示であればLPG（液）を、m <sup>3</sup> 表示であればLPG（ガス）を選択してください。			
注1b. 都市ガスについては、ガス会社の購買伝票の数値をそのまま入力する場合はm <sup>3</sup> を、0℃1気圧の標準状態に換算する場合はNm <sup>3</sup> を選択してください。			
2	Step 1 で選択した燃料の購買伝票などから基準年度燃料使用量を入力してください。 (注2a、注2b)	入力	<b>500</b> kL/年
注2a. 基準年度燃料使用量とは、直近過去3年度間の平均値となります。			
注2b. ここに表示されない単位は、燃料供給事業者にご確認ください。			
3	現在お使いのボイラーのカタログや仕様書からボイラー効率を調べて入力してください。 ボイラーが1台の場合は手入力、2台目からは平均効率計算シートからの自動入力となります。 (注3)	入力	<b>83.3</b> %
注3. ボイラー効率は真発熱量（低位発熱量）基準で入力してください。ご不明の場合は購入店、メーカー等にご確認ください。			
4	導入予定のボイラーの燃料は何ですか？8種類の中からお選びください。	選択	<b>都市ガス</b>
5	導入予定のボイラーのカタログや仕様書からボイラー効率を調べて入力してください。 ボイラーが1台の場合は手入力、2台目からは平均効率計算シートからの自動入力となります。 (注5)	入力	<b>93.3</b> %
注5. ボイラー効率は真発熱量（低位発熱量）基準で入力してください。ご不明の場合は購入店、メーカー等にご確認ください。			
6	Step 1 で選択した燃料の単価	千円/kL	<b>85</b>
	Step 4 で選択した燃料の単価	千円/千Nm <sup>3</sup>	<b>94</b>

A重油
C重油
灯油
LPG(液)
LPG(ガス)
LNG
都市ガス(Nm <sup>3</sup> )
都市ガス(m <sup>3</sup> )
電気

### ③ 算定結果表示

#### 計算結果

項目	既存設備	導入設備
ボイラー効率(%)	<b>83.3</b>	<b>93.3</b>
燃料種別	<b>A重油</b>	<b>都市ガス</b>
真発熱量	<b>36.73</b>	<b>40.63</b>
燃料使用量	<b>500</b> KL/年	<b>404</b> 千Nm <sup>3</sup> /年
CO <sub>2</sub> 排出量(t-CO <sub>2</sub> /年)	<b>1,377</b>	<b>932</b>
CO <sub>2</sub> 削減量(t-CO <sub>2</sub> /年)		<b>445</b>
エネルギー使用量(GJ/年)	<b>19,450</b>	<b>18,161</b>
エネルギーコスト(千円/年)	<b>42,500</b>	<b>37,936</b>

削減率(%) **32.3**

省エネ率(%) **6.6**

# 空調の更新前の活動量を推定する年間活動量算定ツール

- 空調の更新前の活動量が把握できていない場合、年間活動量算定ツールで推定する。

①	EHP（電気式パッケージエアコン）
②	GHP（ガスエンジン・パッケージエアコン）
③	空冷式ヒートポンプチラー
④	水冷式ヒートポンプチラー
⑤	遠心冷凍機（ターボ冷凍機）
⑥	吸収式冷凍機（吸収式冷温水機）

## ① 地域条件入力

### 空調年間活動量算定ツール(EHP版)

Ver.2.1

#### パッケージエアコンの年間電力使用量の算定

ここから スタート	空調機を設置する都道府県を選択	選択	岩手
γ 既定値	選択した都道府県庁所在地	自動表示	盛岡
	都道府県庁所在地の【暖・冷房負荷比：γ値】	自動表示	1.5
	表示された【γ値】で使用するシート	自動表示	寒冷地(γ既定値)
使用するシートを選択(各シートが開く)			
<a href="#">温暖地(γ既定値)</a> <a href="#">寒冷地(γ既定値)</a>			

都道府県庁所在地と気候条件が大きく異なる場合、以下にγ値を入力し、表示されたシートを使用

γ 個別入力	都道府県庁所在地の既定値以外を使用する場合の 【γ値】	入力	
	入力した【γ値】で使用するシート	自動表示	
使用するシートを選択(各シートが開く)			
<a href="#">温暖地(γ個別入力)</a> <a href="#">寒冷地(γ個別入力)</a>			

#### 注意事項

- 【γ値】とは設備設計時の空調負荷計算における最大暖房負荷と最大冷房負荷の比率。  
負荷の大きな方で空調機の機種選定がなされたものとする。冷房負荷に対して選択した場合は $\gamma \leq 1$ である。
- 本ツールは環境省SHIFT事業で年間活動量(電力使用量)を算出するために開発。他の目的に利用することは想定されていません。
- あらゆる入力に対して正しい計算結果が得られることを保証するものではありません。  
計算結果の取り扱いについては、自己責任でお願いします。

## ② 設備・運転情報入力

EHPの設置場所																												
岩手	手順1：空調を行う月、時間を下記の指定の色で塗る(指定の色以外で塗ると計算できません。)																											
	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>冷房</td><td>青</td></tr> <tr><td>暖房</td><td>オレンジ</td></tr> </table> <span style="display: inline-block; vertical-align: middle; margin-left: 10px;">【左から5列目、一番薄い色(アクセント1,白+基本色80%)】</span>	冷房	青	暖房	オレンジ																							
冷房	青																											
暖房	オレンジ																											
使用するγ値	手順2：各月の運転日数を入力する																											
1.5	<span style="display: inline-block; vertical-align: middle; margin-right: 10px;">手順3：Ctrl + Alt + F9を同時に押す</span> <span style="display: inline-block; vertical-align: middle; margin-right: 10px;">手順4：黄色のセルに値を入力する(緑は自動計算)</span>																											
時刻別平均気温[°C]																												
時刻	年間205日																								Ver.2.1			
月	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	運転日数	月		
4	6.1	5.6	5.3	4.9	4.7	4.4	4.7	6.1	7.6	9.2	10.5	11.6	12.4	12.8	13.0	12.9	12.5	11.7	10.7	9.7	8.8	8.0	7.3	6.8	20	4		
5	11.8	11.4	11.0	10.6	10.3	10.2	11.0	12.3	13.7	15.1	16.3	17.5	18.3	18.8	19.0	18.9	18.5	17.8	16.8	15.7	14.7	13.8	13.1	12.5	21	5		
6	16.3	15.9	15.5	15.2	15.0	15.0	15.8	16.9	18.1	19.3	20.4	21.4	22.2	22.6	22.9	22.5	21.8	20.9	19.9	19.0	18.2	17.5	16.9		6			
7	20.5	20.2	19.9	19.7	19.5	19.4	19.9	20.8	21.8	22.9	23.9	24.7	25.4	25.9	26.0	25.7	25.1	24.2	23.3	22.5	21.9	21.4	20.9	21	7			
8	21.6	21.3	21.1	20.8	20.7	20.5	20.8	21.7	22.8	24.0	25.1	26.0	26.7	27.1	27.2	27.1	26.7	26.1	25.1	24.0	23.3	22.8	22.2	21.9	21	8		
9	17.3	17.0	16.8	16.6	16.3	16.2	16.2	17.1	18.4	19.8	21.0	22.0	22.7	23.1	23.2	23.0	22.5	21.6	20.4	19.5	18.8	18.3	17.8	17.5		9		
10	10.7	10.4	10.2	9.9	9.7	9.5	9.3	9.9	11.4	13.0	14.5	15.6	16.4	16.8	16.9	16.7	16.0	14.7	13.6	12.8	12.2	11.7	11.2	10.8	21	10		
11	4.9	4.6	4.4	4.2	4.0	3.9	3.7	3.8	4.9	6.3	7.6	8.6	9.4	9.7	9.8	9.6	8.8	7.8	7.0	6.5	5.9	5.6	5.2	4.9	20		11	
12	0.0	-0.2	-0.4	-0.5	-0.7	-0.8	-0.9	-1.0	-0.5	0.6	1.6	2.4	3.0	3.3	3.3	3.1	2.4	1.7	1.3	0.9	0.6	0.4	0.2	0.0	21		12	
1	-2.8	-3.0	-3.2	-3.3	-3.5	-3.6	-3.8	-3.8	-3.3	-2.1	-1.0	-0.1	0.5	0.8	0.9	0.7	0.2	-0.5	-1.0	-1.3	-1.7	-2.0	-2.3	-2.6	21		1	
2	-2.2	-2.4	-2.6	-2.9	-3.1	-3.3	-3.5	-3.4	-2.5	-1.1	0.0	0.9	1.6	2.0	2.0	2.0	1.5	0.8	0.2	-0.3	-0.7	-1.1	-1.4	-1.7	18		2	
3	1.0	0.6	0.4	0.1	-0.1	-0.3	-0.4	0.2	1.5	2.9	4.1	5.0	5.7	6.1	6.3	6.1	5.7	4.9	4.1	3.4	2.8	2.2	1.8	1.4	21		3	
共通1	冷房負荷ゼロ点	冷房が不要になると思われる外気温度を入力	T <sub>co</sub>	18.0	℃	共通2	暖房設計外気温	設備設計時に最大暖房負荷計算を行った外気温度(JIS B8616のth100に相当)	T <sub>d</sub>	-5.0	℃																	
	暖房負荷ゼロ点	暖房が不要になると思われる外気温度を入力	T <sub>wo</sub>	12.0	℃		設計暖房能力	最大暖房負荷に対して選定したEHPの暖房能力(原則、最大空調負荷に等しい)	Φ <sub>wd</sub>	120.0	kW																	
設備導入前	定格冷房能力	EHPの仕様を入力		Φ <sub>co</sub>	20.0	25.0	前1	前2	前3	前4	前5	前6	前7	前8	前9	前10												
	定格冷房消費電力	EHPの仕様を入力		P <sub>co</sub>	7.9	9.4																						
	定格冷房COP	自動計算		σ <sub>co</sub>	2.53	2.66																						
	定格暖房能力	EHPの仕様を入力		Φ <sub>wo</sub>	22.0	27.0																						
	定格暖房消費電力	EHPの仕様を入力		P <sub>wo</sub>	6.8	7.7																						
	定格暖房COP	自動計算		σ <sub>wo</sub>	3.24	3.51																						
	低温暖房能力	EHPの仕様を入力		Φ <sub>w2</sub>	16.0	19.0																						
	低温暖房消費電力	EHPの仕様を入力		P <sub>w2</sub>	5.3	6.1																						
	低温暖房COP	自動計算		σ <sub>w2</sub>	3.02	3.11																						
台数	同じ容量のEHPの台数を入力					3	2																				台	
設備導入後	定格冷房能力	EHPの仕様を入力		Φ <sub>co</sub>	20.0	25.0	後1	後2	後3	後4	後5	後6	後7	後8	後9	後10												
	定格冷房消費電力	EHPの仕様を入力		P <sub>co</sub>	5.8	6.6																						
	定格冷房COP	自動計算		σ <sub>co</sub>	3.45	3.79																						
	定格暖房能力	EHPの仕様を入力		Φ <sub>wo</sub>	22.0	27.0																						
	定格暖房消費電力	EHPの仕様を入力		P <sub>wo</sub>	5.7	6.3																						
	定格暖房COP	自動計算		σ <sub>wo</sub>	3.86	4.29																						
	低温暖房能力	EHPの仕様を入力		Φ <sub>w2</sub>	18.0	22.0																						
	低温暖房消費電力	EHPの仕様を入力		P <sub>w2</sub>	5.6	6.5																						
	低温暖房COP	自動計算		σ <sub>w2</sub>	3.21	3.38																						
台数	同じ容量のEHPの台数を入力					3	2																				台	

### ③ 算定結果表示

#### 設備導入前電力使用量[kWh]

	冷房	暖房	合計
	22,686	156,085	178,770

1台当たり	前1			前2			前3			前4	
月 期間	冷房	暖房	月合計	冷房	暖房	月合計	冷房	暖房	月合計	冷房	暖房
4		607	607		560	560					
5											
6											
7	2,099		2,099	1,998		1,998					
8	2,527		2,527	2,406		2,406					
9											
10		132	132		122	122					
11		2,057	2,057		1,965	1,965					
12		7,269	7,269		7,184	7,184					
1		9,537	9,537		9,303	9,303					
2		7,259	7,259		7,119	7,119					
3		4,649	4,649		4,524	4,524					
合計	4,626	31,510	36,136	4,404	30,777	35,181					

#### 設備導入後電力使用量[kWh]

	冷房	暖房	合計
	16,373	148,060	164,433

1台当たり	後1			後2			後3			後4	
月 期間	冷房	暖房	月合計	冷房	暖房	月合計	冷房	暖房	月合計	冷房	暖房
4		509	509		458	458					
5											
6											
7	1,541		1,541	1,403		1,403					

# 算定ツールの公開場所

- 支援機関だけでなく、一般の方々も利用可能です。  
(SHIFT事業以外の事業で使用する場合は、各事業の執行団体に利用可能かご確認ください。)

## 環境省 工場・事業場の脱炭素化推進支援サイト

<https://www.env.go.jp/earth/ondanka/kojojigyojo.html>

## 省エネルギーセンター 設備更新等によるCO2削減効果の算定ツール

<https://www.eccj.or.jp/shift/tool/>



項目	既存設備	導入設備
ボイラーエネルギー効率(%)		
燃費種別		
既存熱能(kcal, cal, GJ/kWh)		
燃費使用量		
CO2排出量(kg/kWh)		
CO2削減量(kg/kWh)		
エネルギー一括算定(%)		
エネルギーコスト(円/kWh)		

算定ツール



【本ツールの目的】  
設備更新によるCO2削減効果の算定ツール  
(ボイラーの燃料転換、高効率化)

【本ツールの特徴】  
本ツールは、既存のボイラーエネルギー効率と導入する新ボイラーエネルギー効率を入力するだけで、燃費種別(ガス、石油、電気)、燃費(熱能)、CO2削減量(kg/kWh)を算出することができる。また、既存の燃費種別と燃費量を入力するだけで、既存の熱能を算出することができる。  
【本ツールの活用】  
本ツールは、既存のボイラーエネルギー効率と導入する新ボイラーエネルギー効率を入力することで、燃費種別(ガス、石油、電気)、燃費(熱能)、CO2削減量(kg/kWh)を算出することができる。また、既存の燃費種別と燃費量を入力することで、既存の熱能を算出することができる。  
【本ツールの活用】  
本ツールは、既存のボイラーエネルギー効率と導入する新ボイラーエネルギー効率を入力することで、燃費種別(ガス、石油、電気)、燃費(熱能)、CO2削減量(kg/kWh)を算出することができる。また、既存の燃費種別と燃費量を入力することで、既存の熱能を算出することができる。

解説書

解説書の使用条件などをご確認ください。

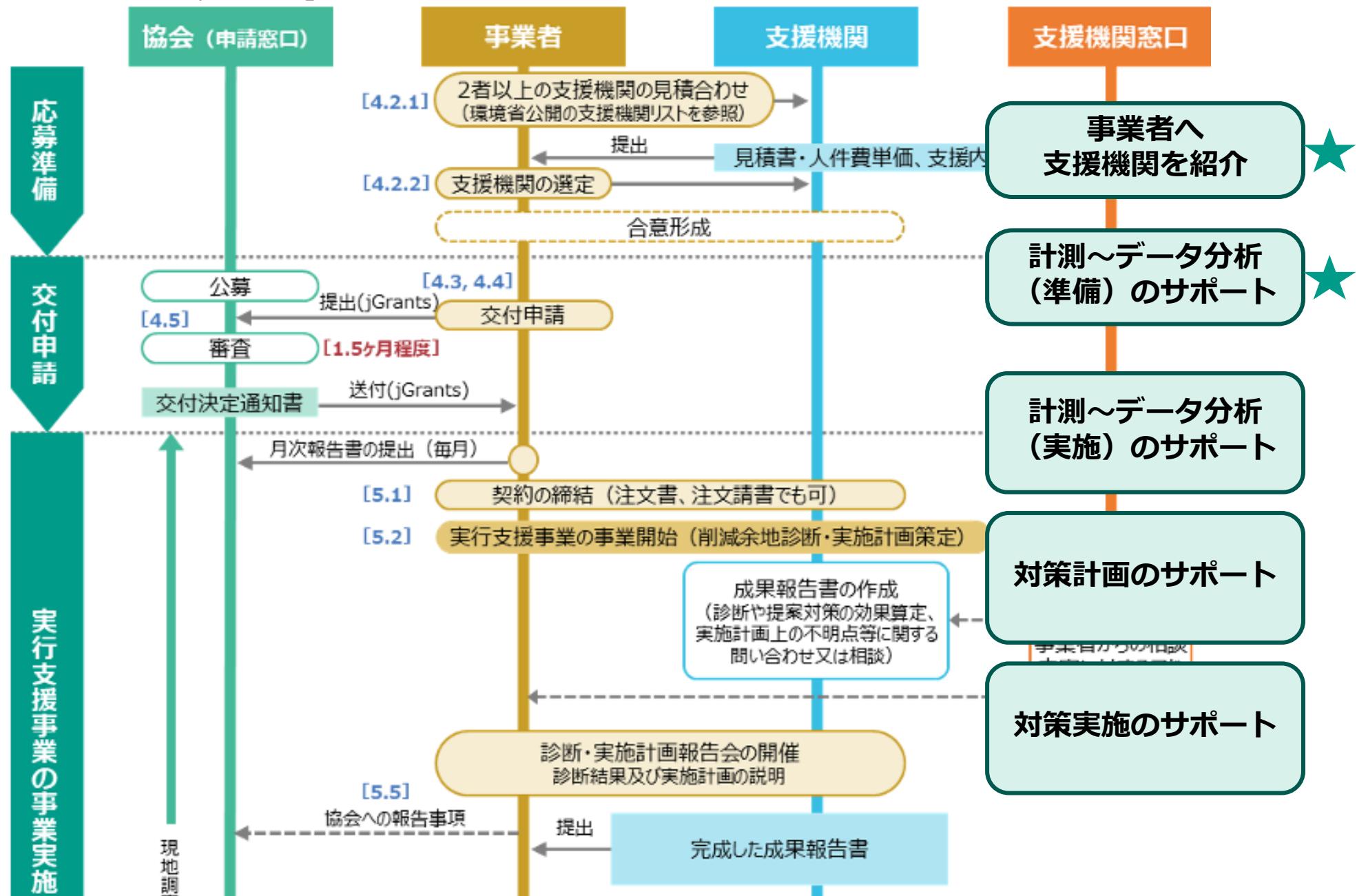
---

## DX型CO2削減対策実行支援事業での サポート

---

# DX型実行支援事業の流れとサポート

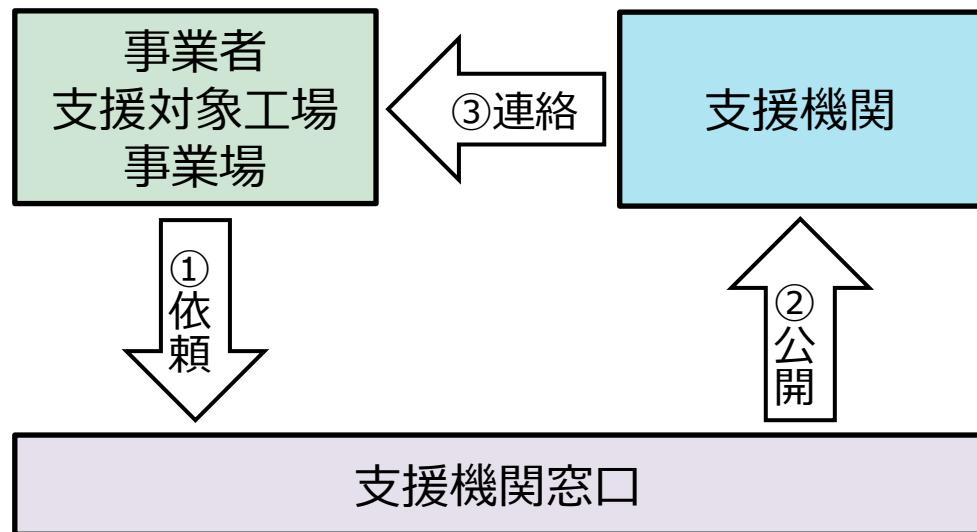
[DX型実行支援事業の流れ] (令和7年度公募要領より引用)



# 事業者へ支援機関を紹介

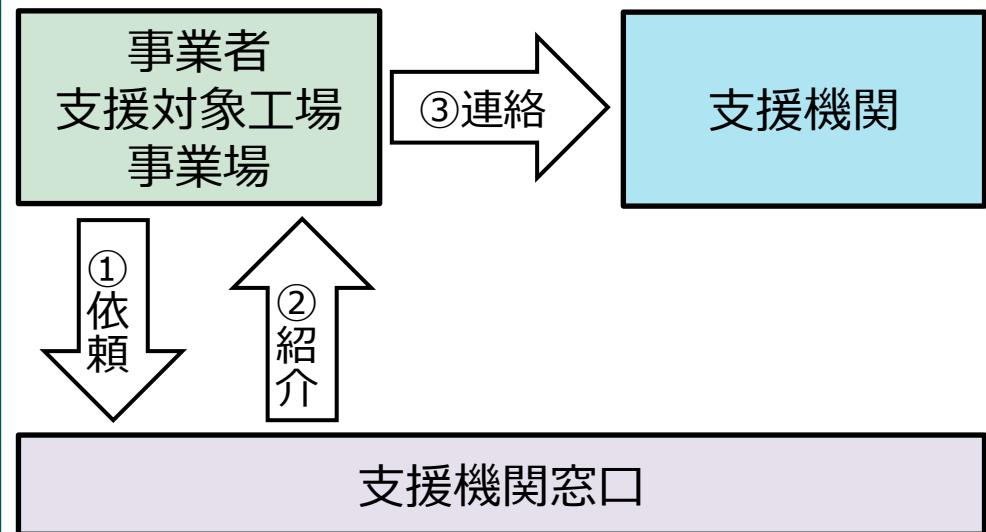
- 事業者から支援機関の紹介を要望された場合、下記の2つの方法で紹介します。

## 事業者が広く支援機関を募集することを希望する場合



・事業者情報を支援機関に限定して公開します。

## 事業者が支援機関の紹介を希望する場合



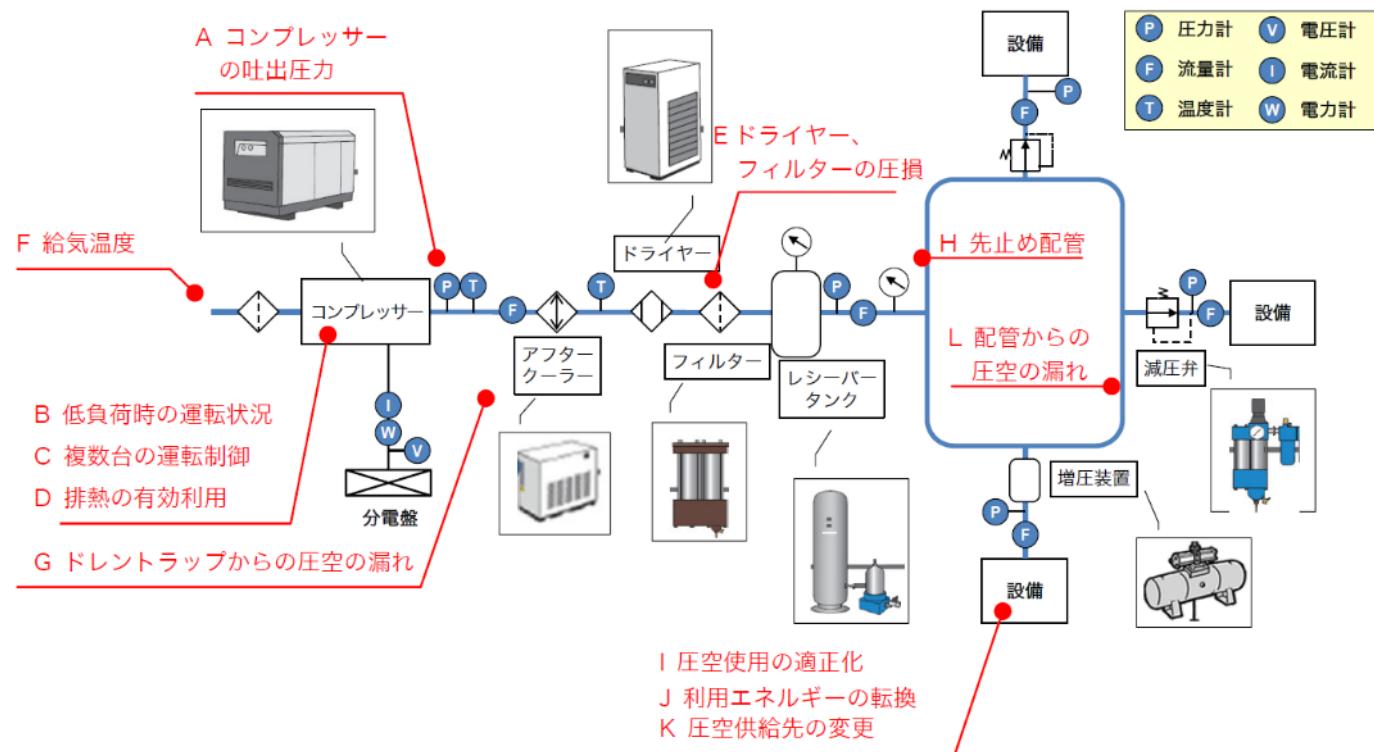
・支援機関の実績・対応等より選択し紹介します。

# 計測～データ分析（準備）のサポート（1）

■ 検討中の計測ポイント以外に考えられるものはあるだろうか…  
想定される問題点から効果的に調査できる計測ポイントを提案します。



この写真の作成者は [CC BY](#) のライセンスを許諾されています

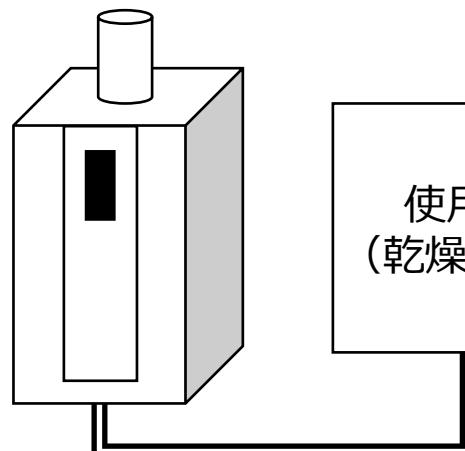


# (ご参考) 計測ポイントの提案例

## 【想定した問題点】

### ボイラーそのものに改善の余地がある

- ・ドレン回収・給水昇温
- ・ボイラーの燃焼空気比改善
- ・バーナーチップの清掃・交換
- 他



### 搬送経路でロスがある

- ・断熱されていない
- ・蒸気漏れがある

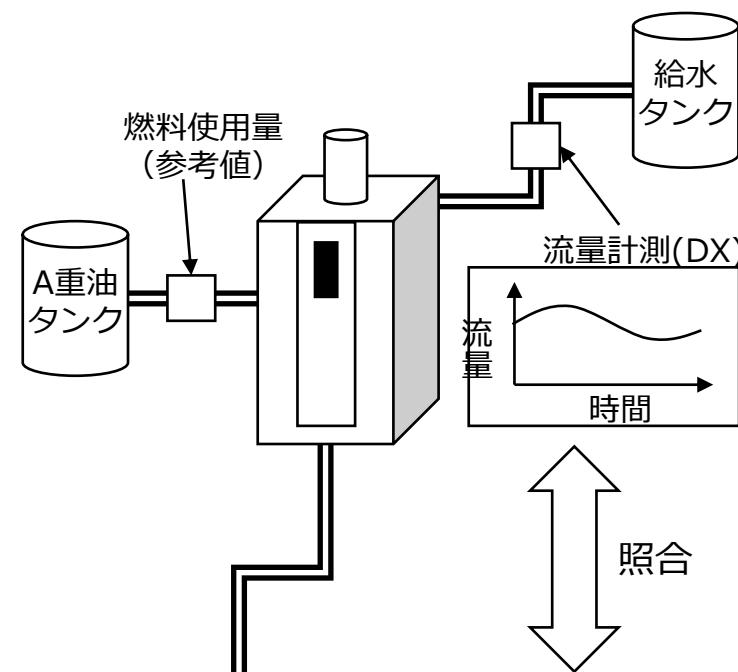
### 必要以上にエネルギーを消費している

- ・乾燥装置からの放熱量が大きい
- ・人手操作のため時により加温時間が長くなる
- ・生産していない時（場所）も蒸気供給している

等

## 【計測ポイントの提案例】

### 乾燥装置の放熱以外の要因を探るDX計測例



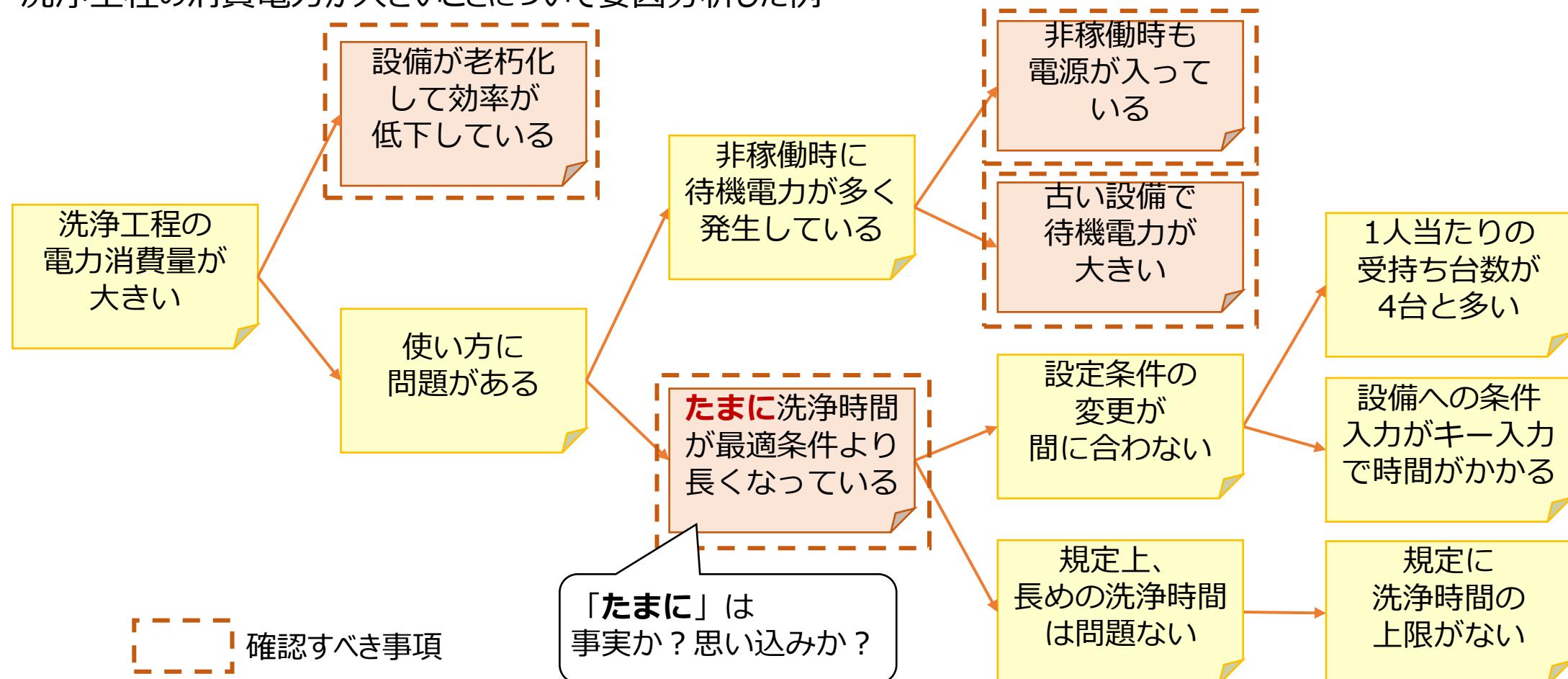
### 使用側 (乾燥装置)

- ・生産の月日時
- ・品種
- ・数量
- (他、養生エリアの使用状況など)

# 計測～データ分析（準備）のサポート（2）

- 運用改善では運用上の問題を色々想定しなければならないが、他にあるだろうか…なぜなぜ分析の結果から想定要因を提案します。

洗浄工程の消費電力が大きいことについて要因分析した例



## (ご参考) 想定要因と追加計測の提案例

## 表紙

## 想定する要因展開図と 提案する追加調査

## 環境省 SHIFT事業

## DXシステムCO2削減計画書へのご参考

「様式第1 別紙1 別添1 DXシステムCO2削減計画書」に記載された  
考へられる仮説があれば、仮説やその仮説を検証する調査などについて  
ご記載しました。ご参考いただければ幸いです。なお、具体的な  
支援をご要望の際は、お気軽にお連絡ください。  
上記以外にもご参考いただける情報について、「その他 参考情報（推  
奨）」に記載しました。既にご認識のものがあるかどうか存じますが、合わせて参考く  
ださい。

No.	対象設備・機器	対策
1	成型機	成型機の更新
2	成型機	成型機の運用管理の適正化
3	コンプレッサー	コンプレッサーの更新
4	コンプレッサー	コンプレッサーの運用管理の適正化
5		
6		
7		
8		
9		
10		

事業番号	
事業者名	
工場・事業場名	

2025年8月29日

支援機関窓口：一般財団法人省エネエネルギー

## 提案する追加調査の概要と 計測機器例

ご経験する道程、貴重な経験と参考情報（後半章題）

◎経営実務が豊富な上級バッハが就職活動で、所蔵経験の2年後を明確に示す  
「所蔵経験が豊富」といふ言葉が頻繁に登場。会場の若手若手は専門家からも「豊富」で評価される。専門性を深め、所蔵経験の豊富をアピールする機会の一つとして、初めての就職活動の経験を豊富に示す機会である。そして内定のアピール式問題は就職活動で終わることがある。例えば、「あなたが就職活動で何をした場合、あなたが就職活動を諦めてしまうか」とか、「会社で何を手伝うまで叶わないとあなたの本音はありますか」、生産性を問われるもののオペレーターがいるのか、などと問われる。

【No.4. コンフレッサー・コンフレッサーの直系後裔】  
-吸気端の構成に押し吸気口と吸気端部の吸気端部  
-吸気口のルートの構成について、内側と外側のルートの構成  
-吸気口の内は力と溝し、あるは力と下に溝し

・財政力薄弱について、現行の制度では、税金の支拂いが可能で、いわゆる下層階層が税金を支拂うべき。

・高齢者に対する虐待は、年々増加の一途を辿り、問題化する事例が増加する傾向にあります。  
・高齢者の高齢化によって、消費能力が低くなってしまい、高齢者に対する虐待（高齢者虐待）を同時に抱える社会問題となってしまっています。

11. *What is the primary purpose of the following statement?*

追加が必要と考える計測値（計測指標）

生産者登録番号：①  
生産日付、生産者名、生産場所の実地指標（生産者登録番号）  
販売者登録番号：②  
各登録地あるいは生産地の水質指標など（生産者登録番号データ：適度  
③）  
生産者登録番号：④  
生産日付など（生産地の日付名義、センターによる登録の  
登録番号等）⑤

## その他参考情報

# 計測～データ分析（準備）のサポート（3）

■ 計測するとしても、DXシステムにどのようなものがあるだろうか……

支援機関窓口で調査したDXシステムの例を支援機関専用ページで公開しています。

測定項目	計測機器・システム									情報聴取日	SHIFT事業における使用例			
	計測機器 メーカー	レンタル有 無	計測器	計測精度	金額 (レンタル)	通信方式	中継器	金額 (レンタル)	データロガ ークラウド	金額 (レンタル)	対象システム	業種	概要	
電力測定	株式会社 SIRC (サーク)	無	IoT電力センサユニット DDS 33シリーズ (三相タイプ)	±3.0%FS	6.98万円/台 (~15φ)、 8.98万円/台 (35φ) φ:ケーブル外形	無線 Bluetooth	クラウドゲートウェイ —	8万円/台 データロガー (センサ20台まで)	クラウド (センサ10台、 ユーザー20名まで) データロガー (センサ20台まで)	6万円/年 見える化ソフトは 無料 16万8千円/台 (6万4800円の ものもあり)	2025/5/23	圧空 工業炉 その他製造設備	製造業 (金属加工、プラスチック製品、など)	対策実施前後の消費電力を計測し、現状の消費電力量の把握、および対策後の効果確認を行う。
		無	小型電力パルスマジュール WPC-PE1SP-00A0000	±1.0%FS * CT誤差 (CT型式 で±1.0~1.5%:定 格時)含まず	3.5万円/台	有線	IoTゲートウェイ (クラウド接続モデル、 LTE接続)	無線15~18万 円/台 —	・見聞録クラウド (クラウド上の見える化 サービス) ・IoTゲートウェイ (Webロガーモデル、 有線LAN接続)	1.55万円/月 (25ch増加毎に 千円/月増) 25~28万円/台		2025/6/27	圧空 空調 工業炉	製造業 (電子回路)
メーカー		計測精度			価格			SHIFT事業の使用例						

この他、年2回の支援機関連絡会で、パネルディスカッションを通した意見交換を実施中。

# まとめ

## ■ CO2削減効果の算定でのサポート

- CO2削減効果の算定ツール
- 空調年間活動量算定ツール

## ■ DX型CO2削減対策実行支援事業でのサポート

- 事業者へ支援機関を紹介（省CO2型システムへの改修支援事業に対しても紹介）
- 計測～データ分析（準備）のサポート
  - ✓ 計測ポイントの提案
  - ✓ 想定要因と追加計測の提案
  - ✓ DXシステム例の紹介

※支援機関専用サイトを介してサポート（令和8年度のサイトは後日支援機関へご連絡）



一般財団法人省エネルギーセンター  
*The Energy Conservation Center, Japan*

**SHIFT**